

永平寺・東尋坊・五箇山・白川郷・飛騨高山旅行

2017 年 9 月 16～18 日

2018 年 12 月画像追記

我部山民樹

夫婦でクラブツーリズムの北陸旅行に参加する。

老犬の介護等もあり、夫婦で出かけるのは久々である。ベトナム旅行が最後か？直前に台風 18 号が日本列島を縦断して北陸も台風圏内との天気予報に変わったので、参加するかどうか、迷ったが、結局参加した。気まぐれ台風で、進路が何度か変わったため、キャンセルのタイミングを逸してしまった。台風覚悟でツアーに参加した。

16 日

団地からの 5:45 発の始発バスに乗るべく、バス停に行く。バスが来ない。土曜日はこのバスが走らないことに気が付く。通常、出かけるのは平日なので失念していた。車で姉ヶ崎駅まで行って駐車場に置いて駅に向かう。どうやら予定の 6:12 発の特急に間に合う。やれやれ。しかし、駅に着いて、休日は特急が走らないのに気が付いた。もともと普通電車で間に合うが、乗り換えが多くて面倒なので、特急に乗ろうとしていただけだったので、普通電車でも間に合った。日頃は平日に出かけていて、休日に滅多に乗車しないとは言え、ドジな話だ。

東京駅でクラブツーリズムの添乗員が迎えてくれる。H さんだ。なかなかの好青年だ。説明が丁寧である。ツアー参加者は 39 名と分かる。夫婦か、友人連れのような。後で判るが、お一人様は女性と男性、各一人だ。予想外にキャンセルした人はいないようだ。

金沢行きの新幹線の 3 人席で、お一人様の男性が私の隣に座った。40 歳前後に見える。彼は‘両親が北陸出身なので、このツアーに参加した。結婚はしていないが、一人暮らし。’と言う。11:06 に金沢駅に到着。タクシーに分乗してホテルクラウンヒルズ金沢に向かう。

運転手さんが‘北陸新幹線が開設されて以降、観光客が増えた。金沢が一人勝ちです。’と言う。後で金沢の賑わいが分る。運転手さんの言うとおりと。

ホテルに到着。中クラスのホテルか？

今日は自由行動なので、まず、ホテル近くの近江町市場で昼食をとって、金沢城公園と兼六園に行き、それから香林坊をぶらぶらし、その辺りで夕食をとることに決める。

ホテルを出たところで、お一人様の男性が一緒に行きたいと申し込んでくる。初めてのところで、一人では不安だというのだ。了解する。近江町市場の入り口で、客が並んでいる寿司屋に並び、入る。リーズナブルな値段で、新鮮でうまい。



金沢城公園で櫓（やぐら）に入る。家内は公園で休んでいると言うので、男性と一緒に櫓に入る。櫓内の展示品を見て、それらについて語り出した。歴史好きで詳しいことが分かる。歴史の話になると、とたんにおしゃべりになる。関ヶ原前後の知識に関しては歴史好きの小生とほぼ同等か？兼六園でもぴったりと付いてくる。家内はお茶を嗜む（たしなむ）ので、抹茶をしたいと言ってお茶処に入る。

彼と瓢池（ひさごいけ）に行く。瓢箪（ひょうたん）の形をしているので、この名が付いたそうだ。



少し雨が降り出したので散策を止め、タクシーにて‘ひがし茶屋街’に向かう。小雨も止んだようだ。

‘ひがし茶屋街’は大勢の観光客で賑わっている。歩くと人にぶつかりそうなくらいだ。外国人や着物を着た若者も多い。名物の‘紫舟小出’で土産を買う。



ひがし茶屋街

小一時間散策した後、雨がまた降ってくる。疲れを感じてきたので、15 時頃タクシーにてホテルに戻る。

少し休んで、15 時半頃にフロントに宅急便のことを聞きに行く。お土産を先に送りたいので。彼がフロントで新聞を読んでいる。我々を待っているのだろうか？宅急便はホテルから着払いで送れることが分かったので、彼に挨拶をして部屋に戻る。

16 時頃に香林坊を散策して夕食をとるためにフロントに降りる。もう彼は居なかった。小雨の中、香林坊繁華街に向かう。10 分足らずだ。街頭でジャズフェスティバルの演奏をしている。看板を見るとこの 3 連休に様々のバンドが交代で演奏するそう。金沢の街もなかなかだ。



香林坊繁華街

古九谷焼風のお皿を記念に買う。ぶらぶらしながら食事場所を探す。家内が焼き魚のような日本食を食いたいと言うので、探すがなかなか見つからない。加賀料理屋や寿司屋は多い。また、若者向けの食事処が多いようだ。やっと炉端焼きの店‘旬魚季菜 とと桜’を見つける。予約してない客が後から来るが、ちょくちょく断られている。我々は少し早い時間に來たのが良かったようだ。人気の店のようだ。リーズナブルな値段で、刺身も新鮮だし、白エビのから揚げ、アナゴの白焼もなかなかうまい。出汁巻卵も特徴があり、うまい。ビールと地酒を楽しんで、1時間ばかりして店を出る。掘り出しものだ。



旬魚料理 とと桜

17 日

5時過ぎに起きて、風呂に入る。温泉ではないが、大きな風呂で、ゆっくりとくつろげる。しかも誰も来ない。独占だ。出るところに数人が入ってくる。バイキングスタイルの朝食を終えて、8時に出発だ。地元のバスにて北陸自動車道を南下する。Yさんという女性のバスガイドが金沢の町を紹介してくれる。前田利家（大河ドラマ‘利家とまつ’で有名）の話や、金沢は京都、島根と並び日本3大和菓子の街であると紹介してくれる。利家が京都の職人を加賀藩に連れ来たとか、島根藩の7代目藩主松平治郷（越前松平家宗家の7代）が茶人として有名（江戸時代の代表的茶人の一人で、号を不味（ふまい）という）で、京都から菓子職人を島根藩に連れてきて和菓子を作らせたとかの話してくれた。博識で流暢な語り口だ。



義経と弁慶像（勸進帳の一場面）

‘安宅の関’ 辺りで、勸進帳の話を語る。それまでの源平の経緯を含めて。今まで知らなかった話も聞く。

やがて、松井秀喜の実家とベースボールミュージアム(秀喜の)が見えて来る。



松井秀喜ベースボールミュージアム

バスの中で、絶え間なく、澁み無く喋っている。最後の日に添乗員も‘多くのバスガイドの話を聞いてきたが、中でも秀逸。’と感心する。恐らく、彼の経験でも群を抜いているのだろう。知識が豊富で、流暢に澁み無く話す。以前の東北旅行の時のバスガイドを彷彿させると家内が言う。安達太良山辺りで、智恵子抄の話を涙ながらに流暢に話していた女性ガイドを思い出す。

加賀インターで高速を降りて東に向かう。向かうところは白山（しろやま）ひめ神社である。この7月に白山を下山後に立ち寄ったところだ。全国に3000社以上あると言われている白山系神社の総本社だ。



僧の泰澄が 1300 年前に開山した話も流暢だ。バスを降りたところで小雨が降り出す。参拝の後、土産屋に立ち寄る。‘白山’ という地酒を義弟夫婦に送る。

再び北陸自動車道に乗り、永平寺に向かう。丸岡インター辺りで、丸岡城が見える。柴田勝家の弟が城主だったが、秀吉に滅ばされた。日本百名城の一つだ。いずれ訪れたい城だ。



福井インターで高速道路を降りて東に向かう。11 時前に到着する。曹洞宗の開祖‘道元禅師’が中国に渡り、禅宗を学び、帰国後に曹洞宗を開いた。道元和尚の映画を見たことが有る。

永平寺が曹洞宗の総本山である。後に弟子の僧の某（名前を忘れた）が能登に総持寺を建立し、曹洞宗を広めたが、総持寺も総本山と称している。火災で焼失したので、その後、鶴見に引っ越したそうだ。石原裕次郎のお墓があることで有名な寺だ。少し前に参拝したことが有る。1 時間ばかり、寺を巡る。広

くて回りきれないが、壮大さ、荘厳さを実感する。250名ばかり居ると（記憶する）雲水が行き来しているが、修行を損なわないように、写真撮影は禁止だ。御朱印を頂く。



寺の前の食事処で昼食を食す。ゴマ豆腐をお土産に買う。12時過ぎに北陸自動車道に乗り、東尋坊に向かう。東尋坊では台風の予報が嘘のように穏やかである。昨日、ガイドが‘東尋坊は強風が予想されるので、近寄れないでしょう。険しい岩場で有り、自殺の名所です。もし間違いが有ってもいけないので。’と説明していたのに。東尋坊で記念撮影をして、周辺をしばらく散策する。

バスにて海岸線を北上し、片山津温泉に向かう。ガイドより‘片山津温泉、山城温泉、山中温泉、粟津温泉の4湯合わせて加賀温泉郷と称する。一時、寂れてしまったが、少し持ち直しつつある。女性スタッフ全員がレディガガ’ならぬ、‘レディーカガ’と称して、宣伝活動をしていることも貢献している。‘との説明有り。



16 時頃、海岸線近くにある片山津温泉の宿の‘加賀の井’に到着。しばらく、周辺を散策する。潟湖を見つける。川で海に通じているそう。水上に‘水の神様’を祀っている祠が有る。橋を渡ってお参りをする。船で潟の周遊ができるが、乗らない。街をぶらつくが、やはり、全体的に寂れているようだ。全国のほとんどの温泉街にも共通することだが。



ホテルに帰る。温泉でしばらく寛いでから、夕食を楽しむ。テーブルは部屋ごとである。食事のコメントは省略する。

天気予報では台風は今夜ここを通過するそう。明日の天気は雨だ。仕方がない。

18 日

早朝 4 時頃に起きる。いつもと同じだ。台風は 3 時には通過したようで、雨も上がっている。プールを見るが、落ち葉等はほとんど浮かんでいない。大した台風ではなかったようだ。

温泉に入る。既に2人の客が入っている。ゆっくりと湯を堪能して出る。フロントのテレビで天気予報を見る。やはり、午前中雨だ。

バイキングの朝食を取り、8時にバスで出発する。世界遺産の五箇山（ごかやま）に向かう。北陸自動車道を北上して、小矢部インターから、東海北陸自動車道を南下する。目的地は真東で、直線距離はそれほどでは無いが、直線道路が無い。回り道するしかない。小矢部を通過する。ここの公共の建造物は世界中の有名な建造物を模倣していることで有名だ。マツコデラックスの番組で紹介されたそうだ。

やがて合掌造りの集落が見えて来る。小規模の所為か、それほど観光客は多くは無い。しばらく、散策して、白川郷に向かう。ここは観光客が多い。しかも外人観光客が多い。欧米系が多いようだ。見学できる個人の家として和田家、神田家、長瀬家が有る。和田家が有名のようだが、神田家に入る。



4階建てで、中が広いのに驚いた。窓から外を見ながら、‘(宿泊場所もあるので)ここで数日ゆっくり過ごすのもよいだろう。’と考える。建造物の維持に国から資金援助を得ているにしても、この歴史遺産を維持していくのは大変だろうと思う。とても1時間では足りない。少なくとも終日は必要だ。

バスにて飛騨高山に向かう。見物の時間を少しでも多くとるために、昼食は車中にて弁当で済ませる。

飛騨高山に到着。外人観光客を含めて、観光客が随分多い。外人観光客は白川郷とは異なりアジア系の方が多いようだ。1時間20分ではとても廻りきれないので、古い町並みの通りだけを散策することにする。お土産物屋と食べ物屋が立ち並んでいる。湯布院の雰囲気を出すと家内が言う。その通りだ。

少し疲れたので、甘み処で休憩する。家内が職場の人達に版画のお土産を買う。あっという間に時間が過ぎて、バスにて松本駅に向かう。車中で‘ここを一日がかりで散策し、街の雰囲気要充分味わいたい。できれば、ここに宿泊し、街や食事を堪能したい。’と話し合う。



途中、平湯（ひらゆ）に立ち寄る。お土産購入とトイレタイムだ。乗鞍岳か奥穂高の帰りに立ち寄ったことを思い出す。

17時半頃、松本駅に到着する。駅ビルの開運堂で名物のお菓子を買う。

18時35分発の‘スーパーあずさ32号’で新宿に向かう。

21時6分に新宿到着予定だ。21時20分発のリムジンバスで五井に向かう予定だが、電車が遅れていることが分かる。車掌に聞くと既に3分遅れで、10数分の遅れが予想されると言われるが、このバスを逃すと自宅に着くのは1時間以上遅れるので大変だ。ニュースで‘人身事故により東北本線が止まっていることやその影響で他の路線も乱れている。’と分る。山の手線は順調らしい。新宿到着は8分遅れの21時14分だ。予定のバスを諦めていたが、チャレンジする。驚くことに、バスタに急いで走ると、9時18分に4階の乗車口に到着出来た。そして幸運にも予定どおりの9時20分発の五井駅行のバスに乗ることが出来た。電車の席がバスタ用の新南口駅に近い1号車だったのも幸いする。行きも帰りもぎりぎりだ。それに台風の天気予報と異なり、大した雨にも降られずに、楽しい旅行ができた。ラッキー。

以上